

～「いわて塩の道早わかり帖」の作成～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名： 「いわて塩の道 野田街道の歴史と文化の検証」
研究代表者： 盛岡短期大学部 教授 松本博明
課題提案者： 岩手県盛岡広域振興局
研究メンバー： 岩淵謙悦・小岩幸恵（盛岡広域振興局経営企画部）
キーワード： いわて塩の道、交通交易史、闘牛、地域伝承と文化

▼研究の概要（背景・目標）

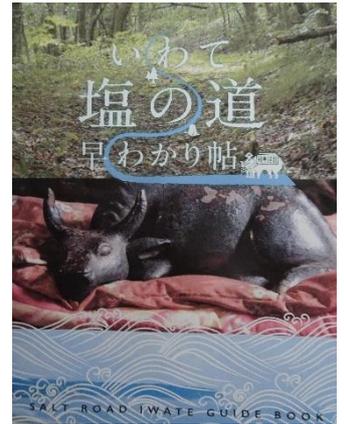
野田村から久慈市（旧山形村）を通り盛岡へと続く野田街道（塩の道）は、資料の編纂や民間の取組による道の保全活動が行われるなど地域の歴史的な遺産として自認されている。しかしこうした遺産・資源の活用を、広域的な連携による効果的に進めていくためには、「塩の道」全域の検証・発信が不可欠である。本研究では調査・検証をすすめ、その成果を発信する「いわて塩の道」ガイドブックを作成する。

写真は上から

図1：『いわて塩の道早わかり帖』表紙

図2：「いわて塩の道」地図（沼宮内廻野田街道）

図3：盛岡市寺町にある「塩の道碑」



▼研究の内容（方法・経過）

「いわて塩の道」関係者を一堂に集め情報交換会を行った。その結果をテキストデータとしてまとめるとともに、先行文献を精査して、塩の道の歴史と実態、機能を把握した。

こうして得た情報を有機的に関連させ、さらに関連する写真などを合わせて、「塩の道地図」（図2）を作成、合わせていわて塩の道に関わる資源を「のだ塩」「牛」「野田鉄」「食」に分類、解説したガイドブック『いわて塩の早わかり帖』（図1）を作製した。冊子は、県外から訪れる観光客、地域資源にあまり興味を持っていなかった地元の人々にも理解できるように作成した。



▼研究の成果（結論・考察）

「いわて塩の道」は、塩だけでなく、米、鉄、海産品、牛なども運ぶ多機能の交易路であった。その範囲は、岩手県にとどまらず、秋田県、新潟県にまで及び壮大な交易路として機能し、物資の運搬、文化の往来に大きな機能を果たした。



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

本研究によって塩の道の持つ地理的、歴史的意義が裏付けられた。さらに、「いわて塩の道ガイドブック」を作成し、広範な組織、地域の人々、観光客などに配布することによって、地域において塩の道の認知度が向上するとともに、所縁を持つ食文化や風俗を活用した商業活動の活発化や広域連携、観光への活用による交流人口の増加、地域の活性化に寄与することが期待できる。